

## がもうが実現！ 大人版救急電話相談#7000

# #7000

## 大人のための救急電話相談 スタート #7000

埼玉県では、県民の急な病気などへの不安を解消し、救急医療機関の負担軽減を図るため、小児救急電話相談(#8000)に加えて、平成26年10月1日(水)から「大人のための救急電話相談(#7000)」を開始しました。

夜間、急な病気やけがをした場合に「救急車を呼ぶかどうか」迷うことがあります。蒲生徳明県議は、こうした声を受け止め、本会議や予算特別委員会などで繰り返し実現を埼玉県に訴えてきました。

#7000に電話すれば、ベテラン看護師が親切に対応してくれます。

「#7000」に先駆けて実施した「小児救急電話相談(#8000)」では、相談のお電話のうち79.3%が「医療機関をすぐに受診する必要がない」と判断されました(25年度実績)。

医療機関を受診すべきか迷ったときは、お気軽にお電話ください。

救急車の出動回数は、毎年、増え続けてきましたが、#8000に続いて#7000が始まったことで、重症患者のより迅速な搬送にもつながるものと期待されます。

■相談時間 年中無休

18時30分～22時30分

■利用方法 「#7000」をダイヤルし、音声ガイダンスにしたがって、ボタン1をプッシュしてください。

◆ボタン2をプッシュすると、救急医療機関案内(休日、夜間などに受診可能な医療機関の案内)につながります(救急医療機関案内は24時間対応しています)。

# #8000

## 子どもは#8000

相談件数(平成25年度)は49,168件。全国最多です。

■相談時間

月～土は19時～翌朝7時 休日(日・祝・年末年始)は9時～翌朝7時

※平成24年7月、相談時間を23時までから翌朝7時まで8時間延長しました。

時間の延長も県議会公明党が推進しました。

## 現場発！草加の安全安心に全力！！

# 埼玉県議会議員 がもう 徳明

県議3期 産業労働企業委員 予算特別委員  
少子高齢福祉社会対策特別委員



ご相談はお気軽に

蒲生徳明県議会議員  
TEL.048-929-2366  
(FAX兼用)

ホームページ <http://noriaki-gamou.com/>



# 平成25年6月定例会 一般質問 質疑質問・答弁全文

## 大人版#8000の導入について

### Q 蒲生徳明議員(公明)

知事は、本県の救急医療体制の機能強化のために救急隊が救急現場で最新情報を取得し、共有できるようタブレット端末の先行配備と救急医療情報システムの機能を強化するための補正予算を今定例会に計上されました。本件については、昨年の9月定例会でわが団の石渡議員が佐賀の救急ネットを例にタブレット端末の導入を県に求め、導入に向け前向きな回答を得ていました。

早期の導入が求められていたところですが、本年1月に久喜市で起きた死亡事故に見られるような搬送患者のたらい回しを二度と起こしてはならないとする新システム導入に向けた知事のご決断を高く評価するものであります。

私も、これまで医師不足や救急医療体制の整備の観点から、特にドクターヘリについて幾度か一般質問で取り上げてきましたが、先月、ドクターヘリが常駐する埼玉医科大総合医療センターのヘリポートに要望の強かった格納庫が完成しました。この点についても上田知事のご英断に感謝いたします。ドクターヘリの体制強化については、現在、県は多重事故などの重複要請に応えるため群馬県との連携を進め、また、早期の24時間体制の再運航に向けた環境整備を進めているとお聞きしております。関係部局のご努力に敬意を表するとともに、一日も早い実現を願うものであります。

そこで、県民の命を守ることこそ県政の第一の責任であるとの観点から、本県の救急医療体制の更なる整備のために、大人版#8000の導入について伺います。

本県の小児救急電話相談、いわゆる#8000は、相談件数が平成23年度は3万2千166件、平成24年度は3万9千941件と年々増えています。

こうしたことから県民のニーズは高いものと思われれます。聞くところによると、奈良県では#8000に加えて大人版の#8000を導入しています。確認したところ、一定の成果が出ているとのことでした。

成人の場合は年齢幅も広く、その分病気の種類も多いため相談内容が多岐にわたるので、小児と比較してどこまで対応できるのかという課題はあります。しかし、高齢化に伴い救急搬送件数は増加傾向にあり、当面収まる気配はありません。救急車の適正利用や医師の疲弊を軽減するためにも導入する意味は大きいのではないのでしょうか。さまざま課題はあると思いますが、他県の成果なども参考にして、本県でも救急電話相談を成人にまで拡大して取り組むべきと考えますが、知事のご所見を伺います。

### A 上田清司 知事

救急医療の課題の一つとして、適正受診の問題があります。本来軽症であるにもかかわらず安易に救急車を利用することで救急医療機関の負担が増大しています。

小児救急については、保護者の不安解消や救急医療機関の負担軽減を目的に、平成19年6月から小児救急電話相談事業、いわゆる#8000を実施しています。昨年7月からは夜11時までだった相談受付時間を翌朝7時まで延ばしました。また本年4月からは回線を増設し、より利用しやすくなったところでもございます。#8000の効果として実施前の平成18年度と平成24年度と比較すると、小児2次救急輪番病院などを受診した軽症患者が約23パーセント減少しています。

大人版#8000について導入している他県の例によると、約7割が受診しない又は翌日の受診などの対応で済んでいると聞いております。

議員ご提案の大人版#8000を導入した場合、救急医療機関の負担軽減や救急車の適正利用についての効果が期待できる、このように思います。

また先月、埼玉県医療対策協議会救急医療部会からも本県の救急医療体制の充実に向けた緊急・短期的に対応すべき取り組みの一つとして、大人版#8000の導入についてご提言をいただいております。

最も効果的な仕組みとなるよう県内の医療関係者や市町村などと協議する場を設けて、その実現のために速やかに対応していきたいと考えております。

(補足)

★この質問の後、平成26年2月定例会の予算特別委員会において、大人版の番号を分かりやすいものにすべきだと、知事に質問。知事より、分かりやすく、利用しやすい番号にしたい旨の答弁を得ました。

★又、平成26年10月1日から#7000の利用が始まった後に行われた県議会特別委員会で地域医療について質問をし、その中で、#7000の利用時間について、効果を検証した上で利用時間枠を拡大すべきだと質問。担当課より、将来、拡大する旨の答弁を得ました。利用時間についても将来は拡大をし、更に県民の皆様が、利用しやすくなります。